



19

げつようび

がくぎょうと せんもんせい

詩篇

78篇72節

彼は、正しい心で彼らを救し、英知の手で彼らを導いた。

多くの友だちが自分も知らないうちに世の中にあるネフィリム運動の中で生きています。そして、自分の考えと判断で多くのことを解決しています。はじめはよく分かっていないのですが、そのようにし続けているうちに、結局、暗やみ文化に陥っている自分の姿に気づかないまま、さまようようになります。神の子どもも同じです。福音を通してくださる救いのまことの幸せと神様の力を受けることができないならば、かえって世の中の奴隷として生きていきます。それゆえ、神様は福音を心に刻んだ私たちがレムナントとして、世の中と多くの人を救い出すことを願っておられるのです。

このように大切な奥義を持つ私たちは、すでに祝福の場にいます。それゆえ、落胆したり、不信仰になる必要がありません。神様はレムナントひとりひとりに契約とビジョン、夢とみことばと祈り、そして作品（CVDIP）を通して、ただ、唯一性、再創造の答えを与えてくださるからです。これを契約の旅程と言います。このとき、私が勉強をしなければならぬ理由も見えてくるでしょう。急に決心することも、遅れていると考えることもしなくて良い理由です。いまから私にだけ与えられた専門性を見つけて10%の中に入るように祈りましょう。



きょうのみことば



きょうのいのり

神様、ありがとうございます。暗やみとのろいの現場で、私にだけ与えられた専門性を見つけて、多くの人を生かして立てる祝福をください。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



書いてみよう

一週間をはじめるときに学業と専門性を身につける前に、まず心に留めるべき3つのことを整理しましょう。

今週、握って 導かれるみことば	
祈りの答え	
出会いの祝福	

きょうのでんどう

あひと
会う人

じゅんび
しりょう
準備する資料



RUTC うんどうの しゅやく

イザヤ
60章 1節

起きよ。光を放て。あなたの光が来て、主の栄光があなたの上に輝いているからだ。

私たちは神様に仕える世界福音化のためのレムナントです。レムナント (R, Remnant) というのは、キリストの根から芽が出た人で、やがて育て木になって、森を成し遂げる人です。このような残りの者、残る者、残れる者、残す者が、レムナントです。神様は、そのような私たちが共同体 (U, Unity) を成し遂げていくとき、今までのがしていたことを回復する訓練 (T, Training) を現場のセンター (C, Center) で成就されるでしょう。

そのときから私たちに与えられる祝福があります。私たちの行く道で出会うすべての人が生かされるようになります。神様がすべての道を備えてくださったので、文化までも生かされます。このように、レムナントのはじまりは誰もできなくて、行くことができないこと (No) のように見えるのですが、結局は、すべてを生かすこと (Every) で終わるようになります。これが福音の力です。

神様が前もって RUTC運動に隠しておられる答に從って世界福音化の主演として立つのを願って祈りを始めましょう。



きょうのみことば



きょうのいのり

神様、ありがとうございます。世界福音化の主演として RUTC運動をリードしていくリーダーになることを願います。その祝福と証拠を与えてください。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



みことばを適用しよう

神様がはじめられた RUTC運動には、それぞれ意味があります。その意味が私の心に深く留まるように祈りながら、神様が喜ばれる RUTC運動と、それにあう絵を線で結びましょう。

第1 RUTC運動



散らされる運動

第2 RUTC運動



いやしとサミット運動

第3 RUTC運動



契約が変わらないで続けられる運動

第4 RUTC運動



集まる運動

第5 RUTC運動



3団体による後遺症を止める運動

きょうのでんどう

会う人

準備する資料

Blank grid area for notes and preparation materials.



はじまりは **No way**
 こたえは **Every way**

出エジプト
 3章18節

彼らはあなたの声に聞き従おう。あなたはイスラエルの長老たちといっしょにエジプトの至のところにいき、彼に『ヘブル人の神、主が私たちとお会いになりました。どうか今、私たちに荒野へ三日の道のりの旅をさせ、私たちの神、主にいけにえをささげさせてください』と言え。

道がわからなくなってしまった (No way) イスラエルの民が、契約をのがしてしまいました。結局、彼らは肉的な答えだけを求めて生きて、「ラメセス」というエジプトの偶像神殿を作る奴隷になってしまいました。当時の長老はどうすればよいかわからず、ため息ばかりついていました。

このとき、モーセがミデヤンに逃げて40年が過ぎていました。彼がすべてをあきらめて、絶対不可能の状況を認めた時期だったのです。神様はこのようにお先真っ暗に見えるモーセを通して、新しいはじまりをなさいました。すべてのイスラエルの民が出エジプト記3章18節の血のいけにえという絶対可能な契約を握って出エジプトをして、毎日幕屋中心の生活を味わうための始まりです。このとき、すべての暗やみの勢力が崩れました。後に、40年間の荒野で契約の箱を持ってヨルダン、エリコのようなNo wayの道を通して、すべての人を生かすEvery wayへ辿り着きます。

私たちが歩むすべての旅程は絶対不可能に見える道です。ですから、モーセのように、神様がなされる絶対可能な契約を握って、Every wayへ続く大切なことに挑戦しましょう。



きょうのみことば



きょうのいのり

神様、ありがとうございます。毎日、神様の力が私に臨みますように。No wayからEvery wayに導いてくださることを体験できますように。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



みことばを
 適用しよう

必ず行かないといけないのに、いまの私には難しく思える道があるなら、内容とその理由を書いて、神様に心からの告白と祈りをささげましょう。神様は私に、行くすべての道を生かせるほどの力をくださるでしょう。



きょうのでんどう

あひと
 会う人

じゆんび
 しりょう
 準備する資料



みことばによって みちびいて くださる かみさま

出エジプト 3章 18節

彼らはあなたの声に聞き従おう。あなたはイスラエルの長老たちといっしょにエジプトの王のところに行き、彼に『ヘブ来人の神、主が私たちとお会いになりました。どうか今、私たちに荒野へ三日の道のりの旅をさせ、私たちの神、主にいけにえをささげさせてください』と言え。

イスラエルの民は福音をのがしたので、エジプトの奴隷として大きな苦しみとわざわいを経験するしかありませんでした。もう奴隷から抜け出す道はないと思ったとき、神様はモーセを呼んで血のいけにえの契約をみことばでくださいました。(出エジプト 3:18) 変わることなく、いつも同じ神様は、今も血のいけにえの契約を、自分に与えられたみことばとして握るレムナントに、完全な永遠の道を見せてくださいます。

このように、みことばによって導かれる神様に従って、私に与えられる契約のみことばを確認しましょう。すると、苦しみは新しく始めるためのとても大切な機会になります。また、みことばの流れに入るとき、問題と事件は神様のみこころを成し遂げる過程になるでしょう。それだけではなく、神様がなさるみことばの成就を見ることを願っているなら、約束された答への道に行くのです。

その道へ行くために、毎日、次のような時間を持ちましょう。朝は、心おどる思いで私の一日を始めます。夕方、みことばを聞いて読んで神様だけを考える深い時間を持ちましょう。このような時間を通して、一日中、私とともにおられ、すべてを治めておられる神様を体験するようになるでしょう。

きょうのみことば

Blank lines for writing the daily word.



神様、ありがとうございます。毎日、私にくださる朝と夜の祈りの時間が一日中、みことばと契約を味わう体験につながりますように。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



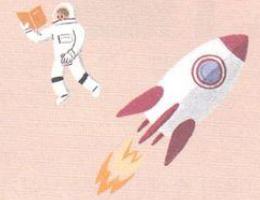
10月はどんな本を読みますか

読書旅行



子どものための 信仰単語辞典

キム・ジュラン 著 | ソンソユニオン (韓国) 出版



講壇のみことばや子どもの祈りの手帳のみことば、また重要な大会のみことばを聞いていると、なんとなく意味は分かるけれど、はっきりとわかっていないむずかしい単語に出会うことがあります。このような単語は時に、私の頭をぐるぐる回り続けて、しばらくの間残ります。ある時は、それが気になって、礼拝に集中できないこともあります。

神の子どもならば、学校生活と違う教会生活を通して、世の中で受けることはできないまことの力と恵みを受ける聖日を送るべきです。神様は講壇にたてられた教役者の先生を通して、神様が私と私たちとすべてを通して成し遂げられるみことばと契約を宣言してください。ですから、礼拝に集中することが本当に重要です。

10月は、もっと礼拝に集中することができるように、教会生活であいまいなまま使っている単語についてわかりやすく解説した本、「子どものための信仰単語辞典」を紹介し、難しかった教会生活をおしまい!にして、単語を探してみことばと契約を

絶対にのがさないレムナントになりましょう。

(翻訳者注: この本は韓国語です。参考までにそのまま訳しました。)



きょうのでんどう

あひと
会う人

じゆんび
準備する資料

Blank lines for writing the daily devotion and preparation materials.



せんぱんと なった イエス・キリスト

しゅつ
出エジプト
38章8節

また彼は、青銅で洗盤を、また青銅でその台を作った。会見の天幕の入口で務めをした女たちの鏡でそれを作った。

私たちの手には、目に見えない細菌とウイルスがとてむたくさんついています。ですから、めんどうだからといって手を洗わないでいると、病気になることがあります。一方で、神様から見た私たちのたましいは、ただ一度洗うだけでいつもきれいで完全になることができます。これはイエス・キリストが十字架で流された水と血によってのみ可能なことです。

洗盤は、このようなイエス・キリストを表します。イスラエルの民は、洗盤の水で、自分の心と考 えの罪を洗い流しました。私 たちも福音であるイエス・キリストのみことばの鏡で、いつも私 自身を調べなければなりません。そのたびに、神様はサタンが与える悪い心と考 え、そして傷を見せてくださり、もう一度、たましいがきれいになるように触れてくださいます。そして、神様はイエス・キリストの力を見上げるレムナントに、目に見えないのですが、最高の力を聖霊のバプテスマによって、たましいいっぱい臨むように注いでくださるでしょう。このような奥義である霊的力を受ける資格を持つレムナントの身分を忘れずに、神の子どもの權威を思う存分味わうように祈りましょう。

きょうのみことば

きょうのいのり

神様、ありがとうございます。洗盤であるイエス・キリストの中にあるまことの神様の力を味わって、神の子どもの權威を用いるように導いてください。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



みことばを
適用しよう

幕屋の中の洗盤を通してきよめられたように、イエス・キリストが私 たちをきよめてくださいました。聖書をとおして、このことを悟らせてくださった神様に感謝して、洗盤の絵を描いてみましょう。



*ヒント：10月3日の子どもの祈りの手帳のめいろを見ると洗盤の絵が確認できます

きょうのでんどう

あひと
会う人

じゅんぶ
準備する資料

Grid area for writing the daily devotion.

Blank lines for writing preparation materials.



かみさまが わたしたちに くださった にわ

I コリント
3 章 16 節

あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか。

神様は出エジプトしたイスラエルの民に、一番初めに神様に向かって礼拝をささげる幕屋を作りなさいと言われました。礼拝によってのみ受けることができるまことの力が、彼らには必要だったからです。

神様は神殿を作る人や、神殿の形、神殿に使う材料と道具について、全部みことばで伝えてくださいました。建築する者と民は、みことばのとおり柱をたてて亜麻布で囲んで青銅の釘で固定しました。世の中の文化が絶対に入ってくることはないように、世の中と区別された聖なる空間として作られたのです。(出エジプト 38:9-20)

幕屋の囲いを作られた神様は、引き続き幕屋の庭を作るようにと言われました。この庭は全世界237か国から来た人々の、まことの安息のためのまことの休み場です。彼らが祈って力を受けるためのいやしの庭を備えられたのです。また、私たちのような若い子どもたちを霊的サミットとしてたてる、レムナントの庭を備えられました。私の心の神殿にも、三つの庭が美しく準備されるように祈りましょう。私の心の神殿は違うことに絶対に奪われないものであるように、いまお祈りしましょう。



きょうのみことば



きょうのいのり

神様、ありがとうございます。神様の神殿である私が、神様が喜ばれる天きて、丈夫で、やすらかな器になり、3つの庭を備えることができますように。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。
アーメン



ちがいを
みつけよう

神殿の庭で全世界237か国をいやすレムナントサミットである私に与えられたみことばを覚えながら、下の2つの絵のちがいを7つ見つけましょう



きょうのでんどう

あひと
会う人

じゅんび
準備する資料

Blank grid area for writing notes or preparing materials.